

関係者各位

## ARTISTS' FAIR KYOTOと一般財団法人東京アートアクセラレーションの交流から ANB Tokyoで2つの展覧会を同時開催します。

すでに一線で活躍するアーティストたちが若手アーティストを支援し、機会を提供することで注目されるARTISTS' FAIR KYOTO（以降、AFK）を中心に、今京都のアートシーンが注目を集めています。若手アーティストの育成と支援を目指すANB Tokyoでは、コレクターにとっても魅力あるシーンへと進化した京都のアートシーンを東京に発信しながら、交流を生み出す機会として、2つの展覧会を開催します。

- ・アーティストによるアーティストのための新しいアートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO」と連携
- ・AFK2021 Akatsuki ART AWARDで名和晃平から推薦され、最優秀賞最優秀賞を受賞した野田幸江個展
- ・京都を拠点としこれからが期待される若手アーティスト5名と、国内外から注目され、AFK2021アドバイザーボードとして若手育成に努める4名からなるグループ展

6F	4F&3F
<p>野田幸江個展 「腐っていくことやここからの眺め」 ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARD 最優秀賞 受賞者展覧会</p>	<p>「Kyoto Perspective」</p>
<p>アーティスト 野田幸江</p>	<p>アーティスト 4F 岡田佑里奈、土取郁香、藤田紗衣、藤本純輝、油野愛子 3F 池田光弘、薄久保香、大庭大介、鬼頭健吾</p>
<p>主催：京都府、ARTISTS' FAIR KYOTO 実行委員会 一般財団法人東京アートアクセラレーション</p>	<p>主催：一般財団法人東京アートアクセラレーション 協力：ARTISTS' FAIR KYOTO 実行委員会</p>
<p>会場：ANB Tokyo（港区六本木5丁目2-4）*六本木駅から徒歩3分 会期：2021年8月7日（土）～29日（日） 開館時間：12:00～18:00 休館日：月・火曜日（祝日の場合は開館） 入場料：一般／1000円 大学生／500円（同時開催展を含め全フロア共通チケット）※価格は全て税込 中・高校生 入場無料 ※受付にて学生証要提示 オンライン事前予約制（URL：<a href="https://reserva.be/anbtokyo">https://reserva.be/anbtokyo</a>）</p>	

### プレビュー

2021年8月4日（水）～6日（金） 14:00～19:00

レセプションは行いませんが、期間中在廊するアーティストと直接話ができる機会となります。

事前予約制となりますので、お手数ですが以下のGoogleフォームよりご来場日時をお申し込みください。

【プレビュー来場申込Googleフォーム：<https://forms.gle/V8mwnN3R4GbNKWc1A>】

皆様のご来場をお待ちしております。

一般財団法人東京アートアクセラレーション  
港区六本木5丁目2-4 ANB Tokyo 2F  
[WEB] <https://taa-fdn.org/>  
[Instagram] @anb\_tokyo  
[お問い合わせ] [miki@taa-fdn.org](mailto:miki@taa-fdn.org)（担当：三木）

## 野田幸江個展「腐っていくことやここからの眺め」

ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARD最優秀賞 受賞者展覧会

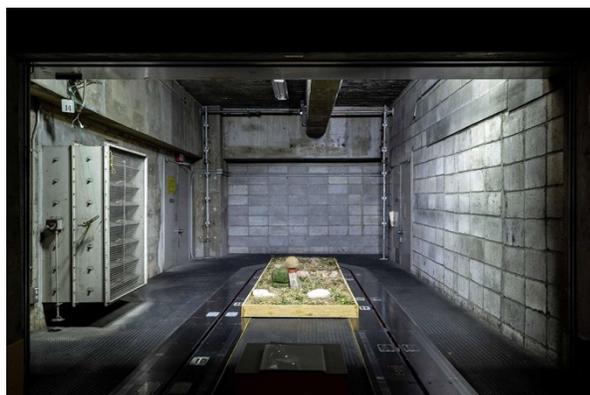
AFKは来場者と出展アーティストが直接コミュニケーションをとることができる、アーティスト主導の新しいアートフェア。アーティストの椿昇がディレクションを担当する本フェアは、地産地消型のスタートアップとして共感を呼び、回を重ねるごとにその規模と熱量を増しています。4回目を迎えた今年3月の開催時には、メイン協賛企業の株式会社アカツキ支援のもと、若手アーティストの活動支援をする「ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARD」を開催。第一回目は、飯田志保子氏、中井康之氏、弊財団 共同代表 山峰潤也が審査委員として招聘。AFK2021に出品する43組のアーティストのなかから野田幸江が最優秀賞に選ばれました。

このたびANB Tokyoでは、AFK2021で最優秀賞を受賞した野田幸江の個展を開催いたします。造園業や花屋として活動しながら作品制作を行う野田は、本展で植物や土、水を素材としながら、流動的に変化する自然を取り込んだ独自の風景を構築します。六本木の風景を見渡す一部屋の中に、土が乾く、雨が降る、種が潤う、植物が栄える、ものが腐る、綿毛が舞う、といった現象を想起させる自然物をアトランダムに配置し、それぞれが呼応しながら見る人の想像力を駆り立てる光景をつくり出します。



### 野田幸江 Noda Sachie

1978年滋賀県生まれ。1999年より絵画制作を始め、各所で作品の発表を行う。また、家業である花屋「ハナノエン」（滋賀県甲賀市）を営みながら、植物による造形の制作、風景についての創作を行っている。自然の流れと、それに関わる人の手に向き合い、観る人の記憶と結びつくような“風景”をつくり出す。



左：「フィールド」2021年制作 AFK2021 Akatsuki ART AWARD最優秀賞作品  
右：「すべてのことがまっ平らになってゆく」2018年制作 BIWAKOビエンナーレ2018出展



### ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARDとは

AFK2021メイン協賛企業の株式会社アカツキ支援のもと、若手アーティストの活動支援をするアートアワード。継続して顕彰することにより、日本現代美術の登竜門となることを目指すとともに、新しい芸術の創造に取り組むアーティストの創作活動を奨励していきます。

主 催：ARTISTS' FAIR KYOTO 実行委員会

協 賛：[株式会社アカツキ](#)

協 力：一般財団法人東京アートアクセラレーション

### 関連イベント

AFKのディレクターを務める椿昇を迎え、AFKの魅力と野田幸江の作品に関するトークイベントを開催します。

日 時：2021年8月7日(土) 16:00~17:30

会 場：ANB Tokyo 7F

登壇者：椿昇（AFKディレクター）、野田幸江、山峰潤也（ANB Tokyoディレクター）

定 員：20名（先着順）

申込方法：下記の必要事項をご記載の上、[bungei@pref.kyoto.lg.jp](mailto:bungei@pref.kyoto.lg.jp)宛にメールにてお申し込みください。

①件名「ANB Tokyoトークイベント申込」、②お名前、③ご所属先（任意）、④来場人数（申込者ご本人を含む）

申込締切：2021年7月31日(土)（定員に達し次第締切とさせていただきます）

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、イベントの実施内容に変更が生じる場合があります。

## Kyoto Perspective

若手アーティスト5人展：岡田佑里奈、土取郁香、藤田紗衣、藤本純輝、油野愛子  
アドバイザーボード4人展：池田光弘、薄久保香、大庭大介、鬼頭健吾

国内有数の美術大学がある京都は、多くのアーティストたちを輩出し、日本のアートシーンに大きな影響を与えてきました。2018年より始まったAFKは、アーティストオリエンテッド（アーティストを第一に考えた）を掲げ、若手アーティストが「芸術で生きて行く」ことができるよう支援していく新しい形のアートフェアとして注目を集めています。経験豊富なアーティストたちが、自分たちがどのようにアーティストとして生きてきたかを伝えながら、若手アーティストたちを支援するAFKは、そのまま今の京都のアートシーンの熱量を伝えるものです。

「Kyoto Perspective」は、AFK 2021に参加した若手アーティストと、AFK2021アドバイザーボードのアーティストの中からANB Tokyoがセクションし、東京で開催するグループ展です。AFK2021に出展した若手アーティストから岡田佑里奈、土取郁香、藤田紗衣、藤本純輝、油野愛子ら5名のアーティストを、そして彼ら彼女らを推薦したアドバイザーボードのアーティストより池田光弘、薄久保香、大庭大介、鬼頭健吾の4名のグループ展を行います。地域性やそこで培われたコミュニティの魅力というのは、それを切り口にしないとなかなか見えてこないものです。本展は、京都で育まれた世代を越えたアーティストたちの連帯を紹介するとともに、京都と東京との新しい交流回路を拓いていく試みです。

### 4F 岡田佑里奈、土取郁香、藤田紗衣、藤本純輝、油野愛子

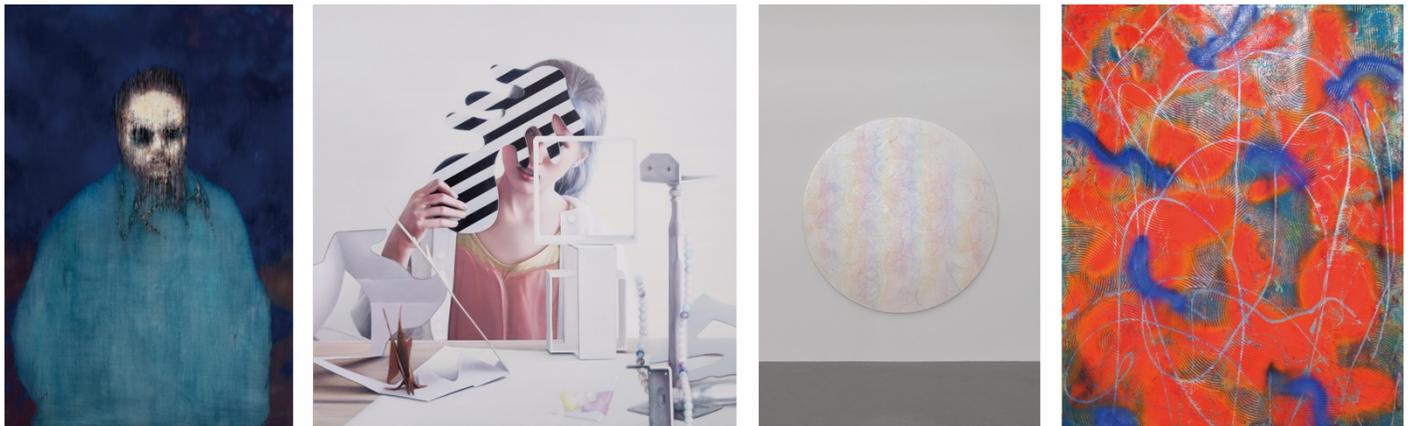
4FではAFK2021に出展した若手アーティストの作品を紹介します。岡田佑里奈、土取郁香、藤田紗衣、藤本純輝、油野愛子の5名は京都・滋賀を拠点に制作する90年代生まれのアーティスト。彼ら彼女らの作品からは、身近な風景や事象を出発点にしなが、それぞれが絵画や写真、シルクスクリーンなど様々な素材や技法を探索する姿勢を深めていることがわかります。



① 岡田佑里奈《ドリームインアウト》2021 ② 土取郁香《I and You》2020 ③ 藤田紗衣《DDD(warp)》2020 ④ 藤本純輝《Olive\_03》2020 ⑤ 油野愛子《The house》2021

### 3F 池田光弘、薄久保香、大庭大介、鬼頭健吾

3Fでは、若手アーティストを推薦する「AFK2021アドバイザーボード」より池田光弘、薄久保香、大庭大介、鬼頭健吾の4名による作品を展示します。国内外で活動の幅を広げつつ、京都のアートシーンと密接に関わりながら精神的に活動する彼ら彼女らは、日本の新しいアートのムーブメントを体現しています。本展では、それぞれが取り組むテーマの新作を含む、大型の作品を中心に約15点を発表予定。



⑥ 池田光弘《blue (no.1)》2021 ⑦ 薄久保香《An experiment based on an accidental 偶然の実験室》2018 ⑧ 大庭大介《THE BATTLE STAGE》2013 [Photo: Nobutada Omote / Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE] ⑨ 鬼頭健吾《cosmic grave》[画像提供: rin art association]



### 岡田佑里奈 Okada Yurina

1995年兵庫県生まれ。京都造形芸術大学大学院芸術専攻ペインティング領域を修了。モデリングペーストの上に写真を転写し、硬化の過程で画面上のイメージにひび割れを起こす手法で作品を制作。「(作品は)コントロールの仕切れない一回性と偶然性により成り立っている。」と岡田が語るように、写真と絵画の間を探る新たなアプローチを試みている。近年参加した主な展示はTEZUKAYAMA GALLERY/VIEWING ROOM (大阪、2021)、biscuit gallery Opening Exhibition I (東京、2021) など。



### 土取郁香 Tsuchitori Fumika

1995年兵庫県生まれ。京都造形芸術大学大学院芸術専攻美術工芸領域修了。親密な距離関係にある2人の人物を描いた《I and You》、風景の中から色やかたちなどの要素を抽出した《a scene》の2つのシリーズを中心に絵画を制作。絵画を構成するものの物質性や虚構性とたわむれ、具象と抽象のあいだを揺れ動くようなイメージを特徴とする。近年の個展に、「骨と皮(火を灯す・薔薇をみつめて来なければ)」WAITING ROOM (東京、2020)、グループ展に「Kyoto Art for Tomorrow 2021—京都府新鋭選抜展—」京都府文化博物館 (京都、2021) など。



### 藤田紗衣 Fujita Sae

1992年京都府生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画修了。版によってあらわれるイメージに着目し、シルクスクリーンやインクジェットプリントなどの複製技術を用いて平面作品、アートブックの制作を行う。2015年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (ロンドン) 版画専攻短期交換留学。近年の主な展示に、個展「ハード/ソフト」I SEE ALL (大阪、2021) など。



### 藤本純輝 Fujimoto Atsuki

1997年三重県生まれ。京都芸術大学大学院芸術専攻美術工芸領域油画分野修了。藤本の絵画は、モチーフや素材、色や絵具の配置などを慎重に選び、画面が構成される。布地や絵具の塊による素材の群生は、オリーブの木や露草、朝顔といった身近な植物の図像へと変容し、また同時に素材としての布地や油絵具の個性をさらに浮き上がらせる。本展では新作を中心に草花が群生している庭の光景をつくり出す。2021年「ARTISTS' FAIR KYOTO 2021 Akatsuki ART AWARD」では優秀賞を受賞。



### 油野愛子 Yuno Aiko

1993年大阪府生まれ。京都芸術大学大学院美術専攻総合造形領域修了。幼少期に想像していた未来への夢や期待を、日常にみる現実社会との違いを交えて制作。子どもから大人になる過程に生まれる違和感、悲しみ・喜び・怒りといった感情の束の間の衝動を、絵画やブロンズ作品、インスタレーションなど多岐にわたる手法を用いた表現で試みる。2017年年ロイヤル・カレッジ・オブ・アート (ロンドン) 短期留学。2018年関渡美術館交換派遣研究員レジデンスプログラム (台湾) に参加。2017年CAF賞入選 (東京)、2019年群馬青年ビエンナーレ入選 (群馬)。



### 池田光弘 Ikeda Mitsuhiro

1978年北海道生まれ。京都芸術大学准教授。2006年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油絵コース修了。2013年ポーラ美術振興財団在外研修員 (ベルリン)。2005年「新・公募展」広島市現代美術館 (広島) 優秀賞、2007年「VOCA 展 2007」上野の森美術館 (東京) VOCA奨励賞。近年の主な個展に、「dawn」Satoko Oe Contemporary (東京、2020)、「Portrait of place」Soka Art Center (台湾、2015)、「location/dislocation」シュウゴアーツ (東京、2012) など。2010年、グループ展「絵画の庭」国立国際美術館 (大阪)、「Art in an Office」豊田市美術館 (愛知)、「現代絵画の展望」東京ステーションギャラリー (東京) に参加。



### 薄久保香 Usukubo Kaoru

栃木県生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻准教授。2010年東京芸術大学大学院美術研究科博士課程美術専攻修了博士号 (油画) 取得。フォトリアリスティックな表現を可能にする精緻なテクニックとシュールリアリスティックな主題とする。相反するかのような二つの要素をまとめあげ、独特の幻想的な作品世界を構築する。近年の展覧会に、「SF -Seamless Fantasy 絵画計画と43,800日の花言葉」MA 2 gallery (東京、2021)、「New Paintings from Kyoto-Kaoru Usukubo and Daisuke Ohba」LOOCK (ベルリン、2020)、「神宮の社芸術祭」明治神宮ミュージアム (東京、2021) など。

Photo: Daisuke Ohmori



### 大庭大介 Ohba Daisuke

1981年静岡県生まれ。京都芸術大学大学院准教授。2007年東京芸術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究分野修了。近年の主な展示に、「絵画-現象の深度」SCAI THE BATHHOUSE (東京、2021)、「New Paintings from Kyoto-Kaoru Usukubo and Daisuke Ohba」LOOCK (ベルリン、2020)、「INTERPRETATIONS, TOKYO —17世紀絵画が誘う現代の表現」原美術館 (東京、2019)、「The Ubiquity of Borders: Japanese Contemporary」Gallery Baton (ソウル、2018)、「白の表現力〜現代のコレクションから〜」静岡県立美術館 (静岡、2015) など。

Photo: You Ishii



### 鬼頭健吾 Kito Kengo

1977年愛知県生まれ。京都芸術大学大学院教授。京都市立芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。インスタレーションをはじめ絵画や立体など多様な表現方法を用いた作品を国内外で発表。2010年文化庁新進芸術家海外研修員 (ベルリン)。代表的な展覧会に「Full Lightness」京都市京セラ美術館 (京都、2020)「Migration」群馬県立近代美術館 (群馬、2015)、「Mono-no-Aware」エルミタージュ美術館 (パリ、2013-14)、「六本木クロッシング2007: 未来への脈動」森美術館 (東京、2007-08)、「ベリー ベリー ヒューマン」豊田市美術館 (愛知、2005) など。

Photo: 藤山誠